

大学教育再生加速プログラム（AP） 事後評価調書

【公表】

1. 整理番号	28
2. 大学等名	創価大学
3. テーマ	I・II複合型
4. 取組学部等名	経済学部、法学部、文学部、経営学部 教育学部、工学部（現 理工学部）、看護学部、国際教養学部
5. 事業期間	平成26年度～令和元年度（6年間）

【公表】

8. 事業の概要（※400字以内）	（387.5文字）
<p>正解のない時代にあつて、授業と実社会を架橋するアクティブ・ラーニング(以下、AL)科目の充実が急がれる。同時に、適確な状況把握とそれに基づいて自らの対応を考える力(自己評価力)の養成が求められる。</p> <p>これまでの取組により多くの科目にALを導入できており、本事業においては、AL導入科目の質的向上により授業外学習時間の増加と理解度の向上を図り、様々な評価指標の開発を通じてALの学修成果の可視化を加速させ、評価の文化を醸成する。そこで磨かれる、自らの学修過程や成果を正しく把握し、次への展望を描く力は、他者・社会への貢献を志向する本学が目標とする「創造的人間」にとって欠かせない素養である。</p> <p>そこで、学年進行に応じた学修成果測定を主な機能とするアセスメント科目(3つのアセスメント・ゲート)を用意し、教える側と学ぶ側、双方がその科目の目標達成にどの程度貢献できたのかを点検する体制を整える。</p>	